



お祝いの言葉

教育学部長・教育学研究科長

八鍬 友広

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。皆さんの新しい門出に際し、教育学部・教育学研究科を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます次第です。

本来であれば、祝賀会の場にて直接お祝いの言葉を述べさせていただくべきところですが、新型コロナウイルスの感染拡大により、会を中止せざるを得なくなりました。まことに残念ですが、事情に鑑みまして、ご諒解いただきたくお願い申し上げます。例年とは異なりますが、本研究科ホームページ上におきまして、皆さんへのお祝いを述べさせていただく次第です。

このような形でお祝いの言葉を述べなければならないことは、確かに異例なことかもしれません。しかしながら、近年の状況を考えるならば、むしろ、これまで通りとはいかないことの方が多くなりつつあるのかもしれない。天気予報などでしばしば耳にする「平年並み」という言葉でさえ、いまではあまり意味をなさないものとなってきました。南極大陸の気温が、観測史上はじめて20度を記録したことなども報じられています。これらの異変の多くが人間の活動に起因するものであると考えられているわけですが、他方で、人間の世界そのものも、かつてない規模の変貌を遂げようとしています。自然と社会の両方を通じた激しい変動が、いま私たちの世界に起ころうとしているようです。このようななかであって、人間はどのように生きていけばよいのでしょうか。根源的な問いをつきつけられる時代となりつつあります。

いま皆さんは、長きにわたった学びの過程を終えられ、いよいよ世界に羽ばたこうとされています。しかしながら、卒業後も問いの止むことはありません。むしろ、これから本当の問いが始まるといってもよいのかもしれない。しなやかに逞しく、問い続けていっていただきたい、そう願っております。皆さんには、社会からの大きな期待が寄せられることでしょう。東北大学で培われた批判的省察力を遺憾なく発揮され、勇躍してそれに応えていただければと思います。

卒業・修了後の進路は、それぞれでありましょうが、いずれの途を歩まれるにせよ、皆さんお一人お一人の今後の人生が、幸多きものとなることを願ってやみません。

最後に、あらためてお祝いを申し上げます。ご卒業、おめでとうございます。